三越劇場
開場95周年

樋口一葉生誕百五十年

奥山眞佐子ひとり芝居

「十三夜」

演出：鈴木龍男



2022年10月29日(土)

午後4時開演（開場：午後3時30分）

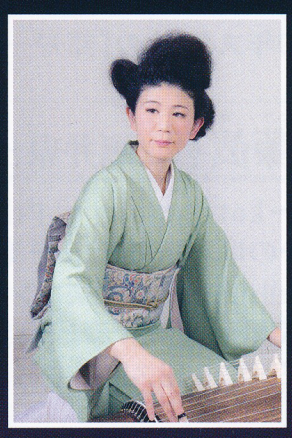
入場料：6,000円（全席指定・税込）

■ご予約・お問合せ

・三越劇場：お電話 0120-03-9354(午前10時～午後6時)
http://mitsukoshi.mistore.jp/bunka/theater/

・ご予約・前売開始：　9月3日(土)午前10時～
（前売初日はお電話・インターネット予約のみ）

・イープラス　http://eplus.jp/　（パソコン・スマホ）



箏：内藤眞代



三味線：杵屋邦寿

制作：いちまるよん：http://www.okuyama104.com/

協力：文教大学学園／文京区 法眞寺／文京区 喫茶ルオー／
銀座 枝香庵／鎌倉市鏑木清方美術館／山梨県立文学館／
かまくら駅前蔵書室／京都＆鎌倉 伊と彦／甲州市県人会／
新宿あいうえお／大久保スタジオM

MITSUKOSHI
三越劇場
〒103-8001 東京都中央区日本橋室町1-4-1
日本橋三越本店本館6階

樋口一葉生誕150年記念公演

奥山眞佐子ひとり芝居 『十三夜』

物語：

主人公の斎藤関（お関）は 17 歳のお正月、高級官僚・原田勇に見染められ、親の意向に従い幼馴染の録之助に抱いていた恋心を胸に封じ込めて原田家に嫁ぎ、長男・太郎を出産します。望まれての結婚でしたが、夫から理不尽な仕打ちを受ける日々が7年間続いたのです。
耐えきれなくなったお関は、十三夜の月に誘われるように実家に向かい両親に離縁したいと願い出ますが父親の許しは得られず、夫の奴隷となって生きる道しかないと覚悟したお関が嫁ぎ先に戻る人力車に乗りました。その人力車の車夫が、あの恋しい録之助だったのです。

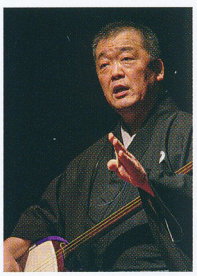
＊1895（明治28年）発表。瞬く間に30万部を売り尽くし再版するも3日とはもたなかった作品です。

原作：樋口一葉　　脚本：英次ともゑ ／ 演出：鈴木龍男 ／ 所作指導：花柳奈千穂
美術：佐々波雅子 ／ 照明：須藤実 ／ 作曲（箏）：小二田茂幸
床山：武川卓男 ／ 着付美粧：佳山みな ／ 舞台監督：稲元洋平
チラシ・ポスターデザイン：飛澤伸彦



樋口一葉（ひぐち いちよう）（東京生まれ。両親は、現在の山梨県甲州市塩山出身）

12歳で小学校高等科卒。「女子にながく学問をさせなんは、ゆくゆくのためよろしからず」との母の言葉に従い進学できず。その後、父の計らいで歌塾・萩の舎に入塾し古典の教養を身に付け、19歳で処女作「闇櫻」脱稿。近代の女性作家第一号の名声を獲得。
1896（明治29）年11月23日 24歳で生涯を閉じた。2004年に五千円紙幣の肖像となる。



杵屋邦寿（きねや くにとし）（東京新宿生まれ）

杵屋邦寿 KunitoshiKineya HOME (kinekuni.com)
18歳で、長唄の三味線と出会いプロとしての道を志す。1990年に独立、杵屋邦寿となる。
1989年に松永鉄九郎師と結成の「長唄三味線ライブ・伝の会」は、邦楽ライブの草分。
2009年スタートの【邦寿一人ライブ】は、2022年1月に100回を突破した。



内藤眞代（ないとう みちよ）（福井県出身）

箏 ～koto ganpy～ 内藤 眞代 (hatenablog.com)
幼少の頃より、アララギ楽苑渡辺愁子氏に手ほどきを受ける。
第5回全国高校邦楽コンク ール第1位受賞。福井県文化協議会新人賞受賞。
NHK邦楽技能者育成会第46期卒業後、箏 曲以外のジャンルにも参加。
現在、大久保スタジオM・小二田茂幸氏作品を中心に活動中。



奥山眞佐子（おくやま まさこ）（山梨県甲府市出身/文教大学文芸科卒）

http://www.okuyama104.com/
原文に少々の注釈や工夫を加えた脚本と生演奏との共演で、黙読では得がたい一葉小説の世界を表現する「ひとり芝居」公演は26年目。三越劇場連続公演は12年目となる。
一葉生誕140周年NHK「視点論点」で、樋口一葉への想いを語る。
＊受賞：御園座社長賞／細うで繁盛記賞／山人会・第33回前田晁文化賞